

特定非営利活動法人 リヴォルヴ学校教育研究所

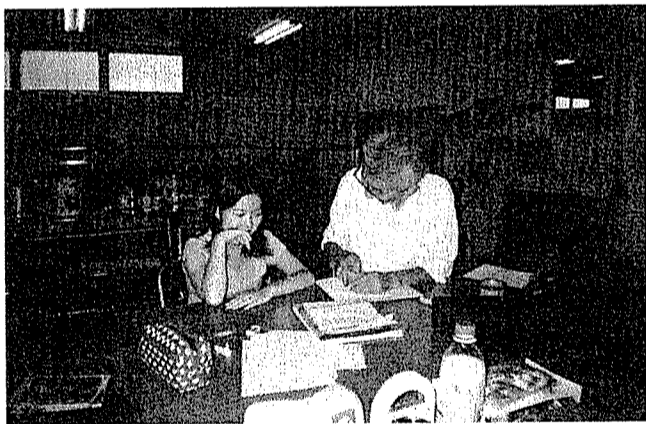
## 「教師と子どもの学校」から、 「地域社会の中の学校」へ

- 所在地：〒305-0051 茨城県つくば市二の宮4-8-3 1-404
- TEL：029-856-8143
- FAX：029-856-8143
- E-mail：npo\_rise@ybb.ne.jp
- ホームページURL：http://www.rise.gr.jp
- 法人格の種類：NPO法人
- 活動分野：子どもの健全育成、社会教育
- メンバー内訳：30人（男女比4：6）
- 活動日：週5日（月～金）
- メンバー間の連絡手段：TEL、FAX、E-mail
- 予算：985万円（2003年度）
- 会費（年額）：正会員学生2,500円、個人5,000円、団体10,000円、賛助会員個人1口3,000円以上、団体1口10,000円以上
- 参加条件：趣旨に賛同いただける方。学園スタッフは別に面接等あり
- 募集方法：新聞、広報誌ほか
- 活動拠点：つくば市

### ○「対立から共育へ」がモットー

今、多くの人が考えている以上に、学校教育は深刻な状態にあります。13万人を超えるといわれる不登校。しかしこの数字には、体は登校していても心で不登校をしている子どもたちの数は含まれていません。そして、辛い思いをしているのは子どもたちばかりではありません。閉鎖的な状況のなかで、教師もまた苦しんでいるのです。

そもそも教育は、国や地方公共団体によって保障されるものではありません。学校を批判し、行政を批判し、互いに責任をなすりつけ合うだけでは何も解決しないばかりか、事態をかえって深刻にするばかりです。今、第一に取り組むべきは、大切な子どもたちの教育を人任せにしないという私たち自身の意識改革でこそあるはずです。



ボランティアによる  
学習指導（ライズ学  
園にて）

学園」では、子どもたち一人ひとりに異なる可能性の伸長を目的として、それぞれのペースに合わせた国語や算数の学習を行っています。そのほか、畑づくりや調理、スポーツ教室など体験的な学習にも力を入れています。

2003・2004年度文部科学省委嘱事業「NPO等と学校教育との連携の在り方についての実践研究」にも参加し、ゲスト・ティーチャーによる授業のコーディネートを行いました。また、子どもたちから寄せられた質問にメールで回答を寄せてもらう「いばらきマナビィ・ネット」の運営にも取り組んでいます。「学校に足を運び、子どもたちと交流する時間がない」という方にも、仕事の昼休みなどにインターネットを利用して参加していただくことで、教育への関心を深めていただければと考えています。

ほかにも、不登校やLD（学習障害）等への理解を深めていただくためのセミナーなども開催しています。

ライズ学園のような小さな学校には、前述のような利点が数多くありますが、これまでの学校以上に閉鎖的になりがちであるという問題もあります。子どもたちに対して、より質の高い教育サービスを提供するためには専門的な知識も必要になりますが、常勤のスタッフの確保が難しく、研修も思うに任せません。こうした課題にも、早急に取り組んでい



自然観察をするライズ学園の子どもたち（実習田近くの小川にて）

リヴォルヴ学校教育研究所代表は、公立中学校の教師として16年間勤務し、学校教育が抱える問題を目の当たりにしてきました。退職をきっかけに、かつての教え子や知人とともにリヴォルヴ学校教育研究所を設立。その後は元教師や現職教師、筑波大学生、臨床心理士など、志を同じくする多様なメンバーが集まり活動を支えています。

当所の活動目的は、トップダウン方式の教育改革に対して、民間レベルからの改革を実際の行動により提案することにあります。既存の学校では思うように力を伸ばすことができない子どもたちのために、民間非営利団体によって運営される新しい形の学校、「小さな地域立学校」を設立し、また、教師と保護者・地域住民間の人的交流を盛んにすることで相互理解・相互扶助の関係の再構築をはかり、「教師と子どもの学校」から「地域社会の中の学校」への脱皮を促していくことが課題です。

### ○フリースクール、ネット、セミナーの運営

「遅い」とか、「違う」とかいうことは、本当にマイナスとばかりにとらえるべきことなのでしょうか。「大器晩成」といわれますが、大器といわれた人々は常人とは違った視点を持ち、異なったものの考え方ができる人でもありました。リヴォルヴ学校教育研究所が運営する「ライズ

きたいと思っています。

### ○教師が各種研修会に自由に参加できるシステムを

「教育改革≠学校教育改革」。地域経済の問題やコミュニティの再生を抜きにして、教育改革を語ることはできません。今後、私たちリヴォルヴ学校教育研究所では、ライズ学園の活動を一層充実させるとともに、いばらきマナビィ・ネットの活動を通して地域社会の活性化をはかりながら、草の根からの教育改革を実現したいと考えています。

具体的には、現在、主に公立学校を対象としている「いばらきマナビィ・ネット」の活動を、フリースクールなど新しい学びの場にもその範囲を広げていくこと。教職員研修については、バウチャー（クーポン）制の実現をめざしています。バウチャーを発行し、教師が自らの選択によって地域で開催されるさまざまな研修会に参加できるシステムの構築です。従来のように、教育委員会が主催するばかりでなく、大学やNPO、民間の研究機関等が研修会に参画することになれば、研修の質の向上が望めます。私立学校やフリースクールのスタッフなども参加が可能になることで、教師間交流が活発となり、閉鎖的な状況の打開実現に希望が見出せるでしょう。



ライズ学園のハロウィン・パーティー（ライズ学園にて）